

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和3年3月27日
学校法人念法学園
幼稚園型認定こども園念法幼稚園

1. 本園の教育目標

『げんきなからだ・すなおなこころ・感謝のきもち』を園訓とし、よりよい環境の中で、直接的・間接的体験を積み、生涯にわたる発達の基礎を培う。

「心の教育」を主とした、心情・豊かな感情・意欲・態度など教育の根本とし、「生きる力」の育成に力を注ぎ、世の中のお役に立つ立派な人に育てる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

本園の教育目標を重視する中で保育内容・環境を見つめ直し、より子どもの育ちに繋げるとともに、園生活での幼児一人一人の成長を保護者にわかりやすく伝える工夫をする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育環境の充実を図る	B	園内のスペースを生かして絵本コーナーを作ったり、廃材ボックスを置いたりして環境の充実に取り組んだ。園庭の固定遊具も一新させた。
2	保育の可視化し、保護者と幼児の姿の共有を図る	C	従来通り、送迎時や電話で幼児の姿をわかりやすく伝えた。また、新たな取り組みとして、SNSを使用し、保育の様子を発信した。
3	教育の質向上のために園内・園外の研修を充実させる	A	2学期は、園内研修を2回実施、3学期は、ECEQ®に取り組んだ。また、外部研修が次々と中止になる中、オンライン研修には、積極的に参加した。
4	職場環境・業務内容の改善	B	教職員数の増加もあり、職員室を改装、更衣室の拡大、休憩室を新設と設備環境は改善した。業務内容面は、役割分担の明確化、ICT化による業務改善を図った。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	今年度は、コロナの影響を受けて、日々の保育や行事が従来通りできないことをチャンスと捉え、保育内容（行事を含む）を大幅に見直した。一つ一つの保育・行事を教職員で丁寧話し合って進めることで、子どもの姿に合わせた保育を実践することができた。引き続き意識をもって継続していく。 園生活での幼児一人一人の成長を保護者に伝えることは、できてはきているが、日頃から保育の様子を写真や動画で撮っている素材を生かしてきれていない。写真や動画をうまく活用してより幼児の姿を伝えていくことが今後の課題でもある。

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

◎「保育環境の充実を図る」

子どもの遊びから担任が自ら考えて玩具や備品を準備することで保育室の環境が充実した。また、階段下に絵本スペースや、廊下に廃材ボックスを置いたり、子どもが自ら素材を選んだり、遊びの選択肢が充実した。3学期には、園庭の全面リニューアルで固定遊具を一新した。

◎「保育の可視化し、保護者と幼児の姿の共有を図る」

従来通り、送迎時や電話で幼児の姿をわかりやすく伝えることができた。

学年日より、写真付きで配信をしたが、内容が時間が経過してからの配信となることがあった。また、新たな取り組みとして、SNSを使用し、保育の様子をリアルタイムで発信もした。ドキュメンテーションへの取り組みを少しずつみられたが、コロナの影響により保護者が園内に入る機会は少なく、共有できないこともあった。

◎「教育の質向上のために、研修を充実させる」

新年度開始時は、コロナの影響で園内研修を実施する状況にならなかったが、2学期以降、園内研修を2回実施、3学期は、ECEQ®に取り組んだ。また、外部研修が次々と中止になる中、オンライン研修には、積極的に参加した。

◎「職場環境・業務内容の改善」

教職員数の増加もあり、職員室を改装、更衣室の拡大、休憩室を新設と設備環境は改善した。休憩室を設置したことで、ノンコンタクトタイムを作ることができ、業務の質向上につながった。役割分担を明確にし業務内容の改善を図ったが、効率よく配置できていないところもあった。園日誌や職員間の報連相をICT化することで簡易に情報共有できるようにはなったが、確認不足、認識違いなど今後の運用方法に課題もみられた。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
1 保育環境	・限られた環境の中で、様々な工夫をし子どもの遊びが発展するように、遊びが広がるように取り組む。 ・縦割り保育の充実させる。
2 保育の可視化	保護者に子どもたちの活動を伝え子どもの育ちを共有し、園の教育への理解を深めるとともに保育者の子ども理解を深め、開かれた教育課程の実現を図る。
3 研修の充実	教育の質向上のために、研修計画及び新任教育課程を作成し、園内研修の充実を図る。また、園外研修へ積極的に参加できる体制を整える
4 組織運営	・職員会議、学年会議の活性化を図る ・職員間の情報共有を徹底する。 ・明確な運営・責任体制を整理する
5 安全管理	・新遊具の遊び方・注意点のマニュアルを作成する。 ・その他、園運営に必要な安全マニュアルの改善を図る。

6. 学校関係者の評価 (保護者2名 (PTA会長・副会長) 地域の方2名 念法学園 評議員1名)

- ・ECEQ®に取り組まれたことはよかった。他園からの意見やアドバイスは、貴重である。今後、他園のECEQ®にも積極的に参加し、園に還元して行ってほしい。
- ・コロナ禍での行事を中止せずに工夫して取り組まれたことはよかった。
- ・緊急時の対応は想定していても難しいが災害マニュアルなどを整備して、保護者にも共通理解を図るようにしてほしい。
- ・園が日々の教育・保育で取り組んでいることは、素晴らしいと思うので日々の子どもの様子を保護者へもっと発信できるように取り組むべきである。
- ・今年、新たに取り組まれたクラスの配置を学年別ではなく、混合させることは異年齢の関わりが生まれるので自分より低い年齢の子どもに優しくするなど道徳心を育てる。1歳児・2歳児もいる念法保育園との交流もしてもいいのではないか。
- ・子どもたちの一年と大人の一年は、同じではない。子どもたちの幼児期の貴重な一年を行事など中止せずに大切にされたことはよかった。
- ・日々子どもたちのことを思い取組まれている先生たちの苦勞が感じられた。
- ・保護者と園の関係性は難しいところもあるが、これからも保護者と園の関係を今までのように大切にしてください。
- ・園の取り組みに対して、良い声は届かないがマイナスの声は届くと思う。マイナスの声にあまり影響されないようにこれからも頑張ってもらいたい。
- ・保護者として、担任以外の先生方が子どもたちのことを理解してくれていることが嬉しい。園全体で子どもをみている安心感がある。
- ・一つ一つの行事が子どもの視点で考えているのが伝わってきた。先生方も子どもたちを理解して進めることで先生たちの自信にも繋がると感じる。
- ・研修への積極的な取り組みは、評価できる。引き続いて継続してほしい。